

1. 授業の概要(ねらい)

外国語を身につける際には必要なのは母語話者と同じ言語体験をすることであり、とくに大量のインプットを耳から受け取ることです。同時に重要なのは、その言語が使われている文化背景を共有することです。日本の英語学習者にとってポップ・ミュージックと映画はそのためにはもっとも手軽な手段と言えるでしょう。この授業では英語圏のポップ・ミュージックを素材に、英語のさまざまな側面に触れていきたいと思います。今学期は、2018年の大ヒット映画 *Bohemian Rhapsody* でもクライマックスとして描かれていた 1985年7月13日にイギリスのウェンブリー・スタジアム、アメリカのフィラデルフィア、JFKスタジアムで開かれた LIVE AID に登場したミュージシャン達を中心に、1980年代から1990年代の英語圏の音楽を採り上げて紹介しながら、英語を学ぶと同時にさまざまな側面から光を当てていきたいと思います。

英語表現については、①リズム、②音の仕組み、③口語表現、④文学的表現などについて身につけていきましょう。また、文化的背景については、①ポピュラー音楽の流れと歴史、②社会と個人の関係、③時代の関心事、④風習や制度といったことが、取りあげられることになると思います。また、聞いているだけでもリスニングのトレーニングにはなりますが、より効果を上げるためには、自分で声に出すことも必要です。聞いたり歌ったり(上手い下手はこの際度外視して)、時には映像を見たりしながら、さまざまな角度から英語に触れていくことにしましょう。

2. 授業の到達目標

- ① 英語のリスニング力の向上。
- ② 語彙、イディオムの充実。
- ③ 歌の内容を理解し味わう。

3. 成績評価の方法および基準

- ① クラスへの自発的参加: 20%
- ② 予習の成果を測る小テスト: 10%
- ③ 授業を受けたうえで考えをまとめる小レポート: 10%
- ③ 学期末試験: 60%

4. 教科書・参考文献

参考文献

北中正和 (2017)『ロック史』 立東舎

5. 準備学習の内容

予習は不可欠です。毎回の授業で、翌週取り上げる歌を紹介します。必ず授業前に繰り返し聴いてください。歌詞などは、さまざまなインターネット・サイトで紹介されていますが、まずは自分の耳で確かめてください。さらに、歌詞を日本語に訳したサイトもありますが、ほとんどは素人の手によるかなり怪しげなものです。まずは自分で辞書を丹念に使って、シンガーが伝えようとしているメッセージを自分で読み取ってください。毎回、予習の成果を確認する小テストを実施しますので、しっかりと時間をかけて予習したうえで授業に臨んでください。

6. その他履修上の注意事項

授業では、音楽を聴き映像を見ます。遅刻は時間までに来ている学生たちが大変迷惑します。遅刻は厳禁とします。また授業に集中していない学生は、見つけ次第退席してもらいます。受講希望者が非常に多い場合は人数制限をする場合があります。上限は50名とします。

7. 授業内容

- 【第1回】 導入: 授業の狙い、評価のポイント、次週への課題
- 【第2回】 Band Aid, "Do They Know It's Christmas"; U.S.A. for Africa, "We Are the World"
- 【第3回】 Survivors from 60s (1)
- 【第4回】 Survivors from 60s (2)
- 【第5回】 Survivors from 60s (3)
- 【第6回】 Super stars from 70s (1)
- 【第7回】 Super stars from 70s (2)
- 【第8回】 Super stars from 70s (3)
- 【第9回】 80s: new wave and other trends (1)
- 【第10回】 80s: new wave and other trends (2)
- 【第11回】 80s: new wave and other trends? (3)
- 【第12回】 90s (1)
- 【第13回】 90s (2)
- 【第14回】 90s (3)
- 【第15回】 Review+exam
(授業計画は大幅に変更される可能性があります。)